

伊豆・小笠原海溝沖合海底自然環境保全地域の指定等について

令和2年7月21日
自然環境局自然環境計課

1 指定の概要

日本海溝の最南部及び伊豆・小笠原海溝の周辺の海域を、伊豆・小笠原海溝沖合海底自然環境保全地域に指定する。

2 自然環境の概要

本地域は、日本海溝の最南部及び伊豆・小笠原海溝の周辺の海域から成り、水深6,000m以上の海域が南北に約1,120kmにわたって連なっている。本地域の大部分を占める伊豆・小笠原海溝は、最深部の水深が9,701mに達し、その面積は99,801 km²に及ぶ。

本地域では、こうした海溝特有の高い水圧と低い水温の過酷な環境下において、特異な生態系が成り立っている。海溝底には、海溝斜面の崩壊等により堆積物が多く堆積するためバイオマスが比較的多く、水深が深いことにより他の海域から隔離されていることも相まって、例えば、カイコウオオソコエビなど、貝類、ナマコ類、端脚類等の中でも超深海の環境に適応し、独自の進化を遂げた固有種又は唯一種が高い種が生息しており、また堆積物中の微生物相も多様でまた、固有である。

また、茂木海山、青ヶ島海山、須美須海山、鳥島海山など点在する海山や急峻な斜面域には、堆積物が堆積しづらいため固着性の種が生息しやすく、湧昇流や深層流等の海流があることから、懸濁物を餌とする冷水性サンゴ類や海綿動物などの脆弱な固着性の種が生息する。また、生きた化石と呼ばれるヨミチヒロウミユリの群集域や大型の原生動物であるゼノフィオフォアなど固有な種や脆弱な種の生息も確認されている。

さらに、一部の海域には湧水域がみられ、ナギナタシロウリガイ等から成る湧水生物群集が存在している。

3 位置、区域及び面積の概要

(1) 位置及び区域

茨城県大洗海岸の東方約300kmの海域を北端とし、東京都小笠原母島の東方約100kmの海域を南端とする、東西約100～150kmの帯状の区域（図1～図3のとおり）

(2) 面積

115,743 km²

4 保全計画の概要

(1) 沖合海底特別地区の指定

本地域のうち、生態系の構成上、重要であり、海底の攪乱により影響を受けやすい海域として、脆弱で低回復な種及び生物群集の生息環境として重要な海

山等の海域、固有性又は唯一性の高い種及び生物群集の生息環境として重要な湧水域や海溝底の海域並びにその他固有性又は唯一性の高い種及び生物群集が確認された海域を沖合海底特別地区に指定する。

(ア) 区域

香取海山周辺、第2鹿島海山周辺、清澄海山周辺、茂木海山周辺、青ヶ島海山周辺、明礁海丘西部海域、須美須海山周辺及び上田海嶺周辺の海域
茂木海底扇状地、坂東深海盆周辺、伊豆・小笠原海溝海溝底（中央部及び南部）周辺の海域

第1鹿島海山湧水域周辺の海域

鳥島海山鯨骨生物群集周辺の海域

(イ) 面積

17,833 km²

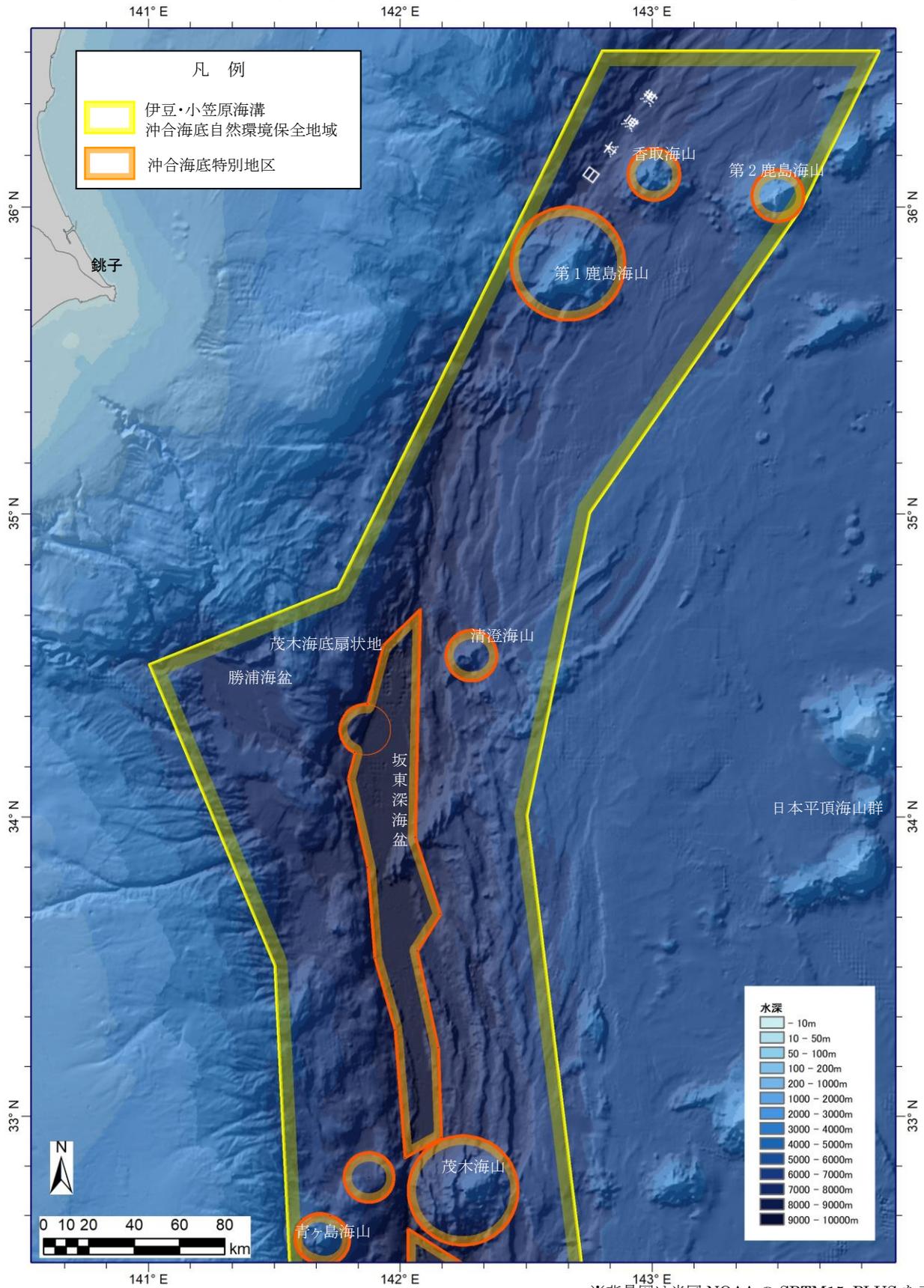
(2) 規制

自然環境保全法第35条の4第3項に規定する特定行為に関し、本地域における、法第35条の4第3項第2号及び第3号に規定する方法を定める。

(3) 必要な事項

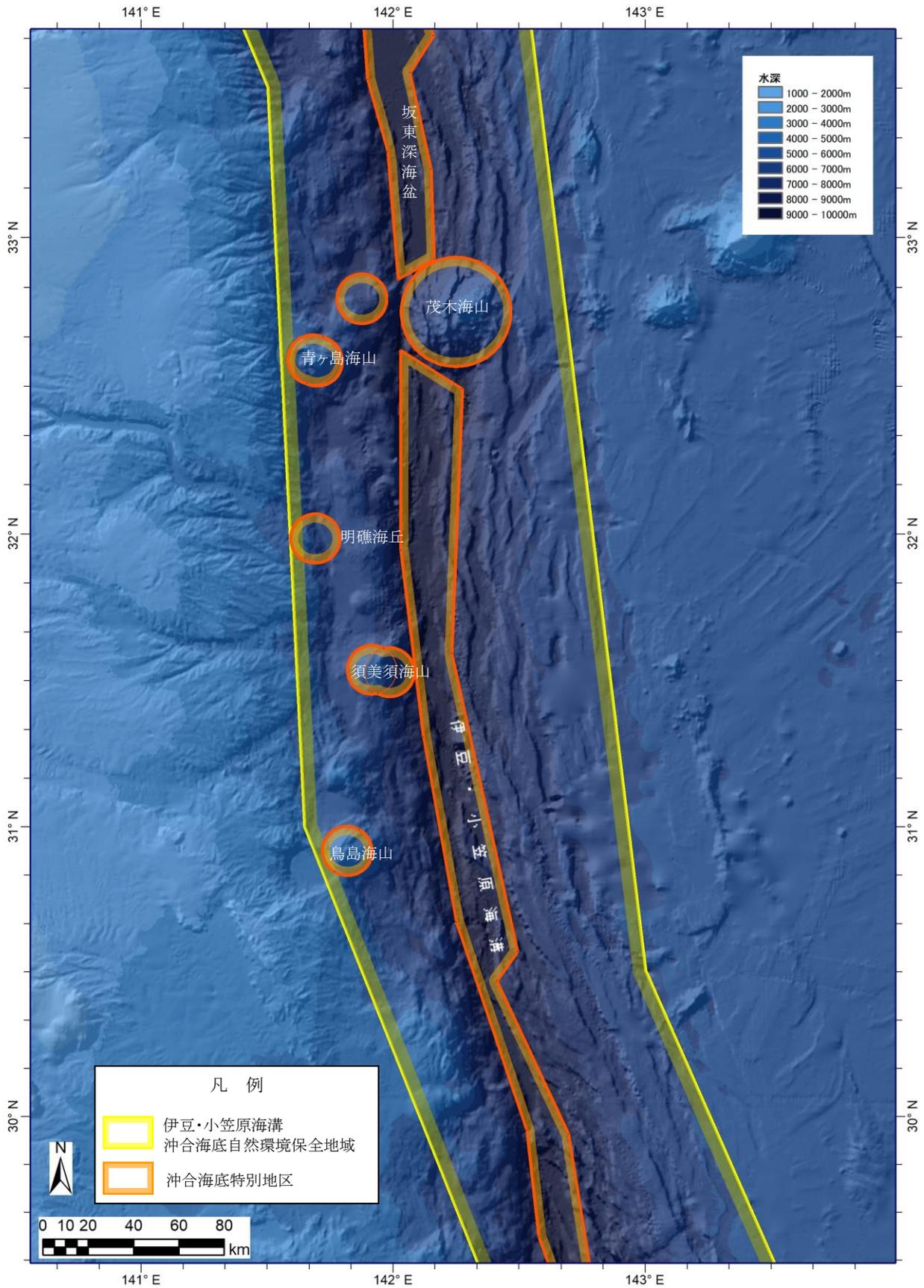
調査に関する事項その他の当該地域における自然環境の保全に関し必要な事項を定める。

図1 伊豆・小笠原海溝沖合海底自然環境保全地域の区域（北部）



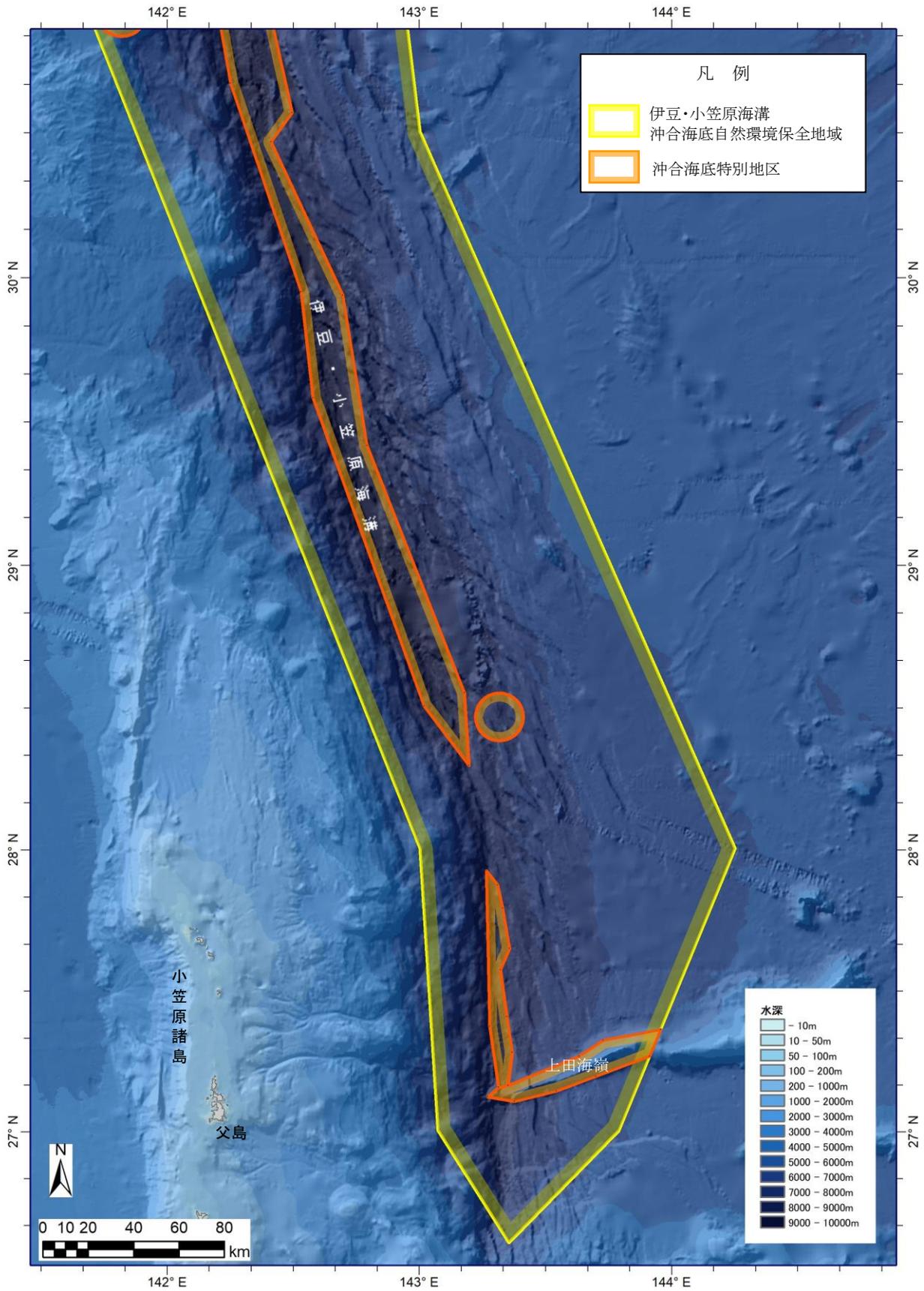
※背景図は米国 NOAA の SRTM15_PLUS を元に作成

図2 伊豆・小笠原海溝沖合海底自然環境保全地域の区域（中央部）



※背景図は米国 NOAA の SRTM15_PLUS を元に作成

図3 伊豆・小笠原海溝沖合海底自然環境保全地域の区域図（南部）



※背景図は米国 NOAA の SRTM15_PLUS を元に作成